

小学校でのいじめ傍観行動の増加予防と

仲裁行動の促進

—「視点取得」に着目しいじめ予防プログラムの開発—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

河津 恵子

小学校でのいじめ傍観行動の増加予防と仲裁行動の促進を目的に、「視点取得」に着目しいじめ予防プログラムを開発・実施し、その効果について検討することを目的とした。1年次の小学6年生対象の授業実践では、授業実施前後で、多次元共感性尺度の「他者指向的反応」「視点取得」、「傍観者意識尺度」「介入行動意図尺度」のすべての下位尺度で有意差が見られた。2年次は、小学4～6年生を対象に授業実践を行い、統制条件との比較による効果測定を行った。その結果、もともとの共感性の高さがいじめ介入行動に対する自己効力感に影響することとともに、「視点取得」に着目しいじめ予防プログラムは、もともと共感性の低い児童のいじめ介入行動に対する自己効力感を高める可能性が示唆された。しかし、本プログラムは授業実施直後の効果は見られても、3か月間の効果の持続は難しかったため、持続可能な維持促進の手続きの検討という課題が残された。